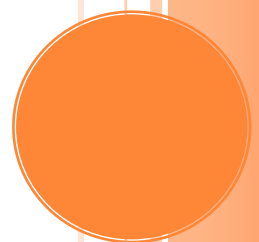


第五期長期計画・調整計画市民会議 報告書

平成26年9月

第五期長期計画・調整計画市民会議



はじめに

武蔵野市は、昭和46年度に策定した第一期以降、市民参加により策定した長期計画に基づいて市政運営を進めてきた。長期計画は、各分野に定める個別計画（健康福祉総合計画・子どもプラン・都市マスタープラン等）の最上位に位置し、市の目指すべき将来像を示すとともに、市が実施するすべての政策の根拠となる最も重要な計画である。

本市の長期計画は、10年間の計画期間として策定しているが、市長選挙が行われたとき又は市政をめぐる情勢に大きな変化があったときは、実行計画の見直しを行い、新たな実行計画（＝調整計画）を策定することとしている。現在は平成24～33年度の10年間の計画期間とする第五期長期計画に基づき市政運営を行っているが、策定以降に生じた様々な社会状況の変化等に対応し、長期計画の実効性を担保するため「調整計画」が策定される。今回策定する第五期長期計画・調整計画は、平成28年度～32年度までの5年間の計画期間とし、平成26年度・27年度の2か年かけて策定作業が行われるものである。

策定にあたっては、幅広く市民の意見を計画に反映させていくために、公募による市民会議、無作為抽出した市民によるワークショップ、パブリックコメント、圏域別市民意見交換会等の様々な方法を実施し、「武蔵野市方式」とよばれる、市民委員による策定委員会を中心とした市民参加・議員参加・職員参加によって進められる。

今回、上記のとおり多様で広範な市民参加を進めるため、第五期長期計画・調整計画市民会議（以下、「市民会議」という。）が設置された。それに先立つ平成26年5月1日から5月20日まで市民委員の募集が行われ、市内在住・在勤・在学の18歳以上の市民から10名の委員が選出された。

この市民会議は、6月5日の第1回会議から8月7日の第5回会議まで、全5回にわたり開催した。会議においては、調整計画の策定にあたり第五期長期計画の市政運営の基本理念を踏まえたうえで、①長期計画の評価及び調整計画策定において議論すべき課題に関すること、②武蔵野市が目指す将来像に関すること、について検討を進めてきた。そのなかで、「武蔵野市の将来を考える～『魅力ある武蔵野市』で在り続けるには～」というテーマを掲げ、さまざまな立場から市民目線で意見を出し合い、活発な意見交換を重ねてきた。そうして得た検討結果を本報告書にまとめ、今後の調整計画策定委員会の討議の参考とするべく、市長に報告するものがある。

策定委員会へはこの市民会議から2名参加していくが、本報告書で挙げられた課題を受けとめ、魅力あるまちで在り続けるために第五期長期計画・調整計画を策定していくことを委員一同心より願うものである。

目次

はじめに

1 「わがまち武蔵野」～武蔵野市の魅力、憧れのまちにするには～ ー第1回会議よりー ...	1
2 「確かな未来を築くまち武蔵野」 ー第2回会議よりー	4
【I 健康・福祉】	4
【II 子ども・教育】	6
3 「市民が主役のまち武蔵野」 ー第3回会議よりー	8
【III 文化・市民生活】	8
【IV 緑・環境】	10
4 「持続可能なまち武蔵野」 ー第4回会議よりー	13
【V 都市基盤】	13
【VI 行・財政】	16
5 「市民参加のあり方」 ～市民会議を振り返って～ ー第5回会議よりー	19
参考資料	22
◆ 検討の経過	22
◆ 第五期長期計画・調整計画市民会議設置要綱	23
◆ 第五期長期計画・調整計画市民会議 委員名簿	24
◆ 傍聴について	24

1 「わがまち武蔵野」～武蔵野市の魅力、憧れのまちにするには～

－第1回会議より－

- ▶ 武蔵野が住みたいまちナンバーワンであることの理由として、交通の便がいいこと、自然が豊かに残っていること、買い物の便のよさ、知的水準の高さなどがあり、その一方で、保育の問題や体感治安の悪化などの課題がある。これにアプローチするには、まず、公共サービスを提供する市役所の得意な分野から課題ごとにPDC Aサイクルを実行することである。問題を洗い出して、よりよいものやっけていくという、至極当たり前なことからやっけていくことである。

また武蔵野市では、本来は公共サービスであるごみ拾いを、月に一度、コミュニティ活動の一環で市民がやっけている例もある。市民自らできることはやっけていこうという試みをうまく活用していければと思う。
- ▶ コミュニティセンターにかかわって、地域にはさまざまな活動があることがよくわかった。市が担う部分もあれば、地域の市民が担っている部分もある。それがコミュニティセンターという場所を通してつながり、意味のある活動になっている。しかし、かかわる方たちの年齢がだんだん高くなってきている。新しい入居者と昔から住んでいる人たちがどうつながっていくのかという課題もあるし、PRしてもなかなか来てくれない。そこで、例えば、転入窓口で「地域のことはコミュニティセンターに」というメッセージを伝えていただき、地域で説明するような取り組みを地道に積み上げていけば、つながりはできるのではないかと。市職員が定期的にコミュニティセンターに来るだけでも、顔を出す方はふえると思う。具体的などころで市民と行政が一緒になってやっけていけるといいと思っている。

そういうことをしながら、やっぱり人のつながりをつくることなのかなと思っている。地域にかかわっていると、うれしいことに、まちの中でご挨拶する人が増える。地道に、一人ひとりがつながって、助け合えるところは助け合い、伝え合えることは伝え合うというのを、この武蔵野でもっと増やしていきたいと思う。
- ▶ この武蔵野市の魅力って何なんだろうと考えたら、住みたいまちナンバーワンの吉祥寺があっ、その一方で、すごく住みやすい住宅街がその周りにあるということが大きなファクターなんだろうと思う。武蔵野市の税収はトップランクにある。武蔵野は「いいところだ」と言う人がワークショップでもたくさんいた。それが開発をする会社に伝わり、マンションを建てれば売れるという見込みと現状に拍車をかけていると思う。

今後も高い税収を維持するには、魅力的な環境を守り続ける必要がある。子どもを育てやすい武蔵野市で生活したいと思えるような施策を続けていかないと、人口も確実に減っけていく中、福祉の財源だけは確実に膨れ上がってしまうと思う。
- ▶ 今絶好調な武蔵野市であるが、今のうちに何とかしておかないと、大変なことになる。住みたいまちナンバーワンにしたのは、実はメディアなのである。「武蔵野アドレス」なら家が高く売れるし、そうなると、ますます高収入な方々が入っけてきて、放っけておいても評価は上がっけていく。しかし、単身世帯が約半分を占めていて、若い方は、高くて家は買えず、結局外に出っけてしまっけて定着しない。一方で、昔からいる人たちは高齢化する。

ジャンボリーの手伝いをしているが、指導者が減っていくという切迫した状態になっている。その辺でパイプをつくって何かをやっていくのが、イコール、市のためになるのではないかと思い、いろんな人に声をかけようと思っている。子どもとつながりということでお役に立てたらいいなと思う。

私は、武蔵野市は伝え方が下手だなと思っている。「市報に何でも書いてあるから、言ったぞ」という感じもプンプンする。せっかくケーブルテレビがあるのだから、その活用も今のうちから考えないといけない。NPOを使って番組を制作させるとか、むさしのFMとの連携でもおもしろい番組ができる。市の後押しと、発信の仕方を変えていくだけでも、かなりよくなると思う。

- 長期計画を拝見したが、施策の立て方が内向きのように感じる。財政力指数が高くても、外に開いていく姿勢が乏しい。今、政府は2020年のオリンピックに向けて、外国人労働者を受け入れる方向を打ち出している。外国人は、まず労働者として入ってきて、家族を呼び寄せ定住化していく。国際結婚も増加している。こうして日本は多文化化していくわけである。武蔵野市にとっても、オリンピックは1つのターニングポイントになる。

少子高齢化に向けて、外国人受け入れの議論がなされているが、住みやすいまちナンバーワンの武蔵野市は、そうした外国人材へのアピールにもなる。今後10年、20年先を考えて、武蔵野市が世界に発信していくという観点が必要である。武蔵野市の現施策では、外国人は支援する対象でしかないが、まちを豊かにしていくすばらしい人材でもある。社会を多様化し、豊かな地域を創造していく人的リソースと捉えて、共に暮らす「多文化共生」施策を充実させ、世界に開かれたまちとしてもう少し積極的にアピールしてもいいのではないか。

私は、武蔵野市は一人の人間の命を守っていけるまちであってほしい。外国人住民が社会の中で孤立しないまちであってほしいと思う。

- 最近の吉祥寺に対する評価は、市長や市役所や市民の努力とは言えないところがある。武蔵野市を主体的に、他の追随を許さないような、秀でた自治体にしていくにはどうしたらいいかという問題意識がある。

市民は、市政に関心が高いと思う。東日本大震災以降、自分はいつ支援する側、される側になるかわからないという意識も芽生えている。今は地域活動に参加してもらおうチャンスである。

長期計画を最初から終わりまで読んだが、1冊に幾らかかっているのかということのほうが気になった。長期計画は、一般の市民には「市役所がつくったもの」という認識である。14万人の市民に全文を読んでもらう必要はないかわりに、エッセンスをわかりやすくしたほうがいいような気がする。財政力指数のような術語的な難しい話ではなく、保育園入園希望の待機児童の数等を指数化するなど、言葉を聞いただけで誰もがわかるものにして、1人でも多くの市民に当事者意識を持ってもらうようにすると思う。

- 自分が当事者の自覚を持つことは大事である。市民が自分たちでやっていこうとすることで、さまざまな反応やつながりが出てくる。ただ、地域活動はやってみたいと思う一方で、きっかけがわからない。面倒くさくなりそうだと敬遠する30代、40代は結構いる。原因は、仕事や家事で地域どころではないということが一番にある。でも、将来は、家族や仕事の関係だけでいいというわけにもいなくなる。やりたいという思いを取り入れられるような地盤づくりが大事である。

プレイスで何度か市民活動家の発表も聞いたが、市民活動をしたい人たちをつなげるところに目線がないような気がする。相談する機関はあっても、ある組織の中に一人を

入れ込むだけで、一人ひとりをつなげる感じではない。世代間格差はあっても、ポテンシャル自体は高いので、それぞれの世代でやりたい人たちが集まって、違う世代にもわかりやすく伝えるにはどうしたらいいのかが課題だと思う。

- 子どものころから今の場所に住んでいるので、地域の人とのつながりが比較的良く維持され、子ども時代はよくかわいがってもらっていた。その人たちも今、年をとられてひとりで住んでいる。武蔵野市は、高齢者福祉や介護の部分がかかなり充実していると思うが、やはり近所の声のかけ合いが重要だと思う。最近では電話番号を交換して、電球のつけかえのようなことでも気軽に言ってほしいとお声かけをしている。

私も実際そうだったが、若い人は、コミュニティセンターにはなかなか足を向けない。いかに若い世代、働いている世代に足を運んでもらうかを考えないといけないと感じた。

武蔵野市は、まちなかを歩いていても住宅街の緑もとてもきれいで気持ちがいいが、最近では相続で土地を売却し、今まで大きかった家がどんどん小さな住宅になってきている。それに伴い、緑の部分も削られている。これからは、まちの様相も変わってくるのではないかと懸念している。住民の目から見たよいまちをつくっていきたくて考えている。

- 武蔵野市は、文化施設を非常によく考え、つくっている。生産緑地なども計画的に使っているし、平和を求める施策も大きく打ち出している。その魅力あるところで育った人たちが今も住んでいるというのが武蔵野市の強みだと思う。コミセンの多さと活用頻度にも驚いた。いつ行っても、市民がいる。それは市民が力を持っているということでもある。武蔵野方式と豊富な人材で、認可保育所をつくるにしても、将来的に他施設に転換できるような工夫をしていけば、他から視察に来るような施策ができるのではないだろうか。

ただ、高所得者を念頭に置いているような危険性も感じている。所得の格差は治安に直結する。吉祥寺という商業地を福祉政策ですくえるものがあるのかどうかはわからないが、低所得の住民のことも考えた施策が必要だと思う。

- 私は吉祥寺には余り魅力を感じない。インスピレーションを与えてくれるまちというわけでもないし、吉祥寺に行かなくても、生活はできる。しかし、魅力がないと言いながら、私はずっとこのまちに住んでいる。それは、ただ単なるベッドタウンではなく、ホームタウンというのだろうか。昔から私を知っているおじさん、おばさんがいる。それが、住み続けられるまちであるかどうかの一番のポイントである。

世代間がつながっていないことは、コミュニティに顔を出すようになって実感している。でも、それを今いきなりつなぐことはできない。子どもが生まれたことによってコミュニティができ上がっていった世代が、そのまま上に上がっていくしかないんだろうと思う。

このまちにいるといろんなことができる、そんなまちであってほしいと思う。箱物をいっぱい作るわけにはいかないし、つくるなら 20 年、30 年を見据えた複合施設だろうが、その前に、今ある施設の運用の仕方、工夫をもっと柔軟にすることではないかと思う。

2 「確かな未来を築くまち武蔵野」 ―第2回会議より―

【I 健康・福祉】

(1) 支え合いの気持ちをつむぐ

- 災害時要介護者支援事業は、地域の人が月に1回ぐらい、介護者宅を訪ねて行って、介護者家族とも日常的なつながりを持つ形をつくることで、介護する人、される人の孤立を避けられるのではないかと。要介護者支援事業をもう少しグレードアップした形で取り組んではどうかと思う。
- アパートに住んでいれば上下左右の人、戸建てに住んでいれば周りの家の人と最低限の話や挨拶ができるような関係がないといけないと思う。
地域リハビリテーションの理念にある「全ての市民」の中に、言語文化の異なる人々への配慮を入れた施策をちりばめていただきたい。
- 地域の中に入るということは、生きるすべである。気づいてからでは遅い。早目に地域の中に入っていきっかけを何か示して、あとは自由に任せればいいのか。
- 60歳ぐらいで地域にかかわらざるを得ないので、今、小・中学校に通う子のお父さん、お母さんを何とか取り込んでいく。ビジネスと商業と人の文化みたいなものが融合している武蔵野市で、そういう方々の参加の機会がふえるといいと思う。
- コミュニティセンターは協議の場とか活動拠点、交流の場の役割を果たす一方で、遊びや祭り、集会の場としての機能も重要である。近隣の人たちとの挨拶から、もう一步踏み出た交流を推進していく。そのあたりで、コミュニティセンターを活用する形での何かができないか。何らかの施策の介入が必要だと感じている。

(2) 誰もが地域で暮らしつづけられるために

- 福祉団体や作業所に対する補助金が十全に使われているかどうか、子どもや障がいを持つ人は、なかなか声にししたり、説明したりすることができない。しっかりとした市の監査が必要ではないか。
- 未来を見出しにくい在宅介護・看護には、介護者の精神的なケアも必要である。
- 家族介護支援事業の充実に重点を置いてほしいと思う。これから増えるであろう老老介護や親一人子一人世帯の人への、より一層の配慮が必要だと思う。介護者が仕事を続けながら被介護者とともに暮らせるのが、本当の意味での福祉充実都市である。
- 介護する人の負担が大きな課題だと思う。介護鬱にも陥りがちな介護者の支え合いの仕組みをつくって、個別に相談するだけでなく、同じ体験を共有している人同士が集まって、悩みを分かち合えるといいと思う。市と社会福祉協議会のような地域の福祉の会が一緒になってコーディネートする形をとってはどうか。

(3) 誰もがいつまでも健康な生活を送るための健康づくりの推進

- 重点施策の「予防を重視した健康施策の推進」、これこそが市町村自治体としての役割が発揮できる施策の1つだと思う。予防という観点では、重症化する前に受診を促す有効な施策だと思う。
- 介護されることになる前が問題で、武蔵野市は便利なようでも、買い物が結構不便である。自営業者が高齢になって廃業した後は、例えばコンビニを誘導するということができれば、少しずつ便利になっていくと思う。
- 予防の段階で支え合いができる状況をつくっておくことが必要だと思う。例えば私の住むマンションでは、月1回ふれあいサロンとあって、10～15人が集まって、ゲームをやったり歌ったりして、安否確認というわけでもないが健康を確認し合うシステムができ上がっている。
- 公園を活用した健康づくりを推進することで、子どもたちとの異世代の交流の場にできるのではないかな。
- 平日に休みをとってでも人が集まるインパクトのあるイベント、魅力あるプログラムを是非行政にもやってほしい。そういうところに意識を持っているNPOの支援にも注力していただければと思う。
- 介護保険認定者数は、放っておくと、どんどん上がっていく。具体的に数値目標をつくって、65歳以上の人口に対する介護保険認定者の比率は20%を死守するというやり方のほうが、わかりやすいと思う。
- 小児科は、あるように見えて、ない。小児科を確保する方策を行政としても考えていく必要があるのではないかな。

(4) 住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備

- 他人の迷惑になるのが嫌だという意識が強い人もいて、それは介護時に身内の負担が多くなってしまふということに繋がる。家族の負担が少なく、介護が必要な本人にもわかりやすく使いやすい公のサービスをもっと提供していただきたい。介護を受ける場合のサービス内容がわかるような情報提供をしていただければと思う。
- 介護は、トイレリハビリも、体験してみないと負担がわからないので、予行演習できる形があるといいと思う。
- 介護の問題は、国の政策である介護保険事業が地方に移管されていく関係からも、新たな課題が出てくると思う。予算の関係で、サービスの低下が起こるのではないかと心配もされている。サービスの悪化で、6割以上は状態が悪化して介護度が上がり、お金がもったかかるといふ調査もある。介護支援の充実は、喫緊の課題である。
- 地域福祉を支えている組織における担い手不足の問題がある。私の地区の民生委員さんを見ても、たくさん的人数を抱えていて、1人にかかる負担は非常に大きい。制度と、制度を活用する人をつなぐ組織・人をもう少し充実させていく必要がある。
- 介護人材の不足も問題になっている。介護の仕事がきつい、安いではなく、きちんとした対価が払われるよう行政側からも働きかけをしてほしい。

【Ⅱ 子ども・教育】

(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援

- しつけは家庭の問題と突き放してしまうのではなくて、一緒に話せる仲間がいることが必要になってくる。そういう部分を、どうサポートするか。具体的には、市の方と地域のある種の団体が一緒になって、悩みを持つお母さんたちとのコーディネート機能を担う。人がつながっていく中で力は蓄えられていく。
- 第四次子どもプランも、国の制度を検証し武蔵野市に合う形にしないといけない。つくった後もきちんと検証して、見直していくべきである。数値目標なり、やったことに対しての評価なりを入れていくと、もっといろんな意見も出ると思う。
- 待機児童解消のためには、待機児童の比率の目標を掲げて、それをだんだん小さくしていくことを導入したほうがいいのではないかな。
- 待機児童は増えており、多くの人が異議申し立てや陳情、署名などで認可保育園の増設を求めている。市は2010年には現在の子育て世帯の増加を予測していたはずだが、なぜ対策がここまで遅れたのかを検証し、次の計画に生かしてほしい。
- 保育園をふやしてほしいと言う一方で、求めるだけのことをちゃんと言っているのかどうなのかというところが大事になる。それでも保育園が必要なんだと言って、初めてきちんと要望していける。

(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て家庭支援

- 重点施策の「子育てネットワークの多層化」を考える上では、核となる子育て世代の事情や実態、支援のあり方を丁寧に見て調査し、反映するべきだと思う。
- 家族や就労の形態がさまざまに変化する中で、子育て支援のニーズが変化しているという新たな課題がある。
- 子育てや教育にもっとたくさんの人がかかわるようになっていくのがいいのではないかな。
- ジャンボリー、セカンドスクールの民泊も含めてパーツごとではよくできている。ただ、どこへ行っても地域の支援者は同じ顔ぶれで、行き詰まっている感もある。
- 地域活動と言うとハードルが高くなるが、「ほんの少しだけでいい」というハードルの低さを出すと、軽いところから始められる。
- コミュニティづくりの核、拠点の1つとして保育園を位置づけることもできる。小学校に上がるまでは地域に全く参加しない人を保育園で何とかつなぎとめて、拠点となって、家庭保育をしている人たちも巻き込んでいくという方策ができないかなと思う。
- 親同士がいろいろな作業を通してイベントなどをつくり上げていくのを見て、子どもたちは育つ。そういう意味で、先生方とも一緒に親が共同作業をしていくことは大事だと思う。
- 市有地で、現在使われていない場所を安全に配慮したしつらえで空き地にして、何とか遊び場にできないかと思っている。

(3) 次代を担う力をはぐくむ学校教育

- 重要なのは公教育の信頼アップ。武蔵野市の公教育だけで十分と思えば、塾に行く必要はない。
- 学校にかかわる地域の人間をふやしていく。サポートとして、教室の中に地域の人がいる、あるいは学童やあそべえに地域の人がいることで、一緒に子どもを育てていく。
- 地域の人たちと「かかわらなければいけない」ではなく、「どう助けてもらおうか」に意識が変化すれば大分違うと思う。
- 障がいのある子どもたちも、地域で一緒に育てていく形が望ましい。地域の人たちと学校とが手をつないでやってあげられることはいっぱいある。
- 障がい児教育では、動線に分かれている学校が多い気がする。何のために特別支援学級をやっているのか。特別支援学級との交流といっても、ただいるだけの交流もある。それでは意味はない。障がいたからということで子どもたちが嫌悪するのではなく、何が足りないのかを子どもたち同士で考えながら助け合えるような教育の仕方が必要だと思う。
- 「心のバリアフリー」の観点からも、子どものときから福祉活動を授業に取り入れるのはいいことである。特別支援学級の子どもたちと遊びや学びを一緒にしたり、老人ホームでのお手伝いをしてはどうか。
- 不審者対策でセキュリティを強化している今の社会状況で、「開かれた学校づくり」というのは難しいとも思う。
- セカンドスクールばかりアピールするのではなくて、根本的にどうしていくかということももっと出しているのかなと思う。
- 学級崩壊といったクライシスの状況を、うまくリカバリーできるシステムを武蔵野市としても用意していければいいのかなと思う。
- 私たちが子どもたちに、言語文化や肌の色、考えの違う人たちがいて社会をつくっていくという認識を醸成していくことは、非常に重要な、大きな問題だと思う。
- 武蔵野市だけのことで施策が閉じられているところに非常に違和感がある。今は共生教育とも言われているが、そうした教育を通して子どもたちは世界に羽ばたいていく存在であるという視点も、きちんと入れていただきたい。
- 四中に帰国・外国人教育相談室があって、外国につながる子どもの教育支援をされていると聞いている。この長期計画の中には、そういうことが何も入っていない。「多文化共生社会」に向けた施策として教育分野においてきちんと位置付けをしてほしい。
- 「季刊むさしの」の「むさしの仕事図鑑」はいい。中学生のキャリア教育を通して、社会性が養われる。ただ、その募集をフェイスブックに上げているが、中学生にはLINEのほうがいいのではないかな。そもそもICTを使った広報は、まだ試行錯誤中なので積極的に挑戦して欲しい。
- 保護者が何を求めているのかのチェックもしていないみたいだし、学校の周りの地域の人たちが学校の安全をどう思っているのかもわからない。関係者の気持ちを吸い上げるようなシステムがあったほうがいいと思った。
- 現場の先生たちは本当のところはどう思っているのか、行政はもっと聞き取るべき。
- 子どもたちを教えたい学生、塾講師をやっている人などに来てもらって、お手伝いをしたり、子どもたちと触れ合ってもらえれば、教員としても助かるし、教員志望の人たちも、学校の雰囲気や問題点が見えてくるのではないかな。TA(ティーチングアシスタント)だけでなく、ボランティア登録のような形で、放課後の補習に来てもらうというような流れが広がっていくといい。

3 「市民が主役のまち武蔵野」 — 第3回会議より —

【Ⅲ 文化・市民生活】

(1) 地域社会と市民活動の活性化

- 市民活動にも全然携わっていないし、何も考えない人がふえると、長期計画の冊子に幾ら自主的な活動を促すと書いたところで、活動そのものが先細りになってしまう。市は、予算を使ってでも、市民活動に参加しましょうと呼びかけていくべきだと思う。
- 市民活動では、やりたいという市民が来るだけでなく、やりたいと思わない方が、ふらっと参加して、いつの間にかやろうと思っちゃったという働きかけが大事である。そのための仕掛けづくりとして、武蔵野プレイスはすごく可能性を持っていると思う。ただ、市民活動ではない気軽さを見せつつも、実はいつのまにか結果的に市民活動につながっていたという試みがいいのかなと思う。また、来た人たち相互を結びつける働きかけがもっと増えるといいのではないかと、いう気もしている。
- 地域に暮らしている人同士をつなぐには、コーディネートが必要になる。行政の人と地域の人が協力してやればいいが、企画をしても、いつも同じような人が出てくるのが現実だとすれば、そうでない人にどう伝え、どうアプローチしていくのかが必要になる。
- これからの地域コミュニティ検討委員会が、地域フォーラムをつくってはどうかという提案をされているが、地域フォーラムをつくれれば人がつながるというものではない。会議で集まったから人がつながるのではなくて、その逆で、手間暇かけてつながっているから会議が生きる。そういう手間暇かけるところを、私たちと市の方たちと協力して担っていく必要がある。外国人も、障がいのある人も、例えば防災訓練とかに来てもらうことで、この人たちは被災したときにどういう困難があるかをみんなも知ることができる。
- 今なら防災をテーマにしたら、出にくい、出たくない人も、出てきやすくなるのではないかと。いざ直下地震が来たときに、市の職員だけでうまくやれるのかという懸念をいつも持っている。
- このような場で話したことが、議会で本当に具体的に話されているのかは疑問である。傍聴にも行くが、技術的なことや違う次元の話をしている。市長のタウンミーティングのようなことを議会がしてくれてもいい。
- 長期計画では、市民活動の最たるものである市議会について何も書いてない。計画の中に、私たち市民にとっての市議会はこうあるべきだという意見が、本当はあってもよかったのではないかと。

(2) 互いに尊重し認めあう平和な社会の構築

- 急速なグローバル化による社会的な問題認識がされていないのではないかと。第三期長期計画のときに盛り込まれた平和政策は、1986年4月に出された平和問題懇談会の提言書によるもので、武蔵野市の国際化政策は、ここから全く進展していない。外国人住民の増加や外国滞在の長かった日本人市民、国際結婚の増加など、社会の多文化化に対応できる施策が必要である。「多文化共生施策」として、災害時対応も含め、柱としてきちんと立てていくべきである。
- 市長が政策の柱に挙げている平和政策について、今の路線を堅持しつつ今後も重視してほしい。

(3) 市民文化の醸成と産業の振興

- どんな文化都市を目指すのか、具体的な方向性は示されず、どういう文化を目指していきたいのかの全容が全く見えない。サイクルの大変短い、使い捨ての商品を追いかける生活の中では、日本の長い歴史の中で育んできた文化に匹敵するものが生まれてこない。
- アニメ、コスプレパレードが文化の熟成と言えるのだろうか？ 吉祥寺は寺の街。市やNPOがお寺と協働して、文化、歴史の浸透を図り、落ち着きのある街に戻して欲しい。
- 吉祥寺美術館では、メジャーな美術館が扱わないような作品を、鋭い鑑識眼を持ってすくい上げている。そういうものを扱っていくのも悪くない。まだ名もない、才能のある若手アーティストが、才能を開花させる場所として美術館を活用するなどしたらいいのではないか。
- 吉祥寺バスロータリーの一面にあるマナーポイント跡や放置自転車が撤去された歩道を、土・日の朝市やノミの市等に活用し、まちの魅力を高めて、市民文化の向上につなげていけたらいい。
- 小さな商店が太刀打ちできないくらい、駅前にはチェーン店ばかりになった。住宅街のちょっとした飲食店や八百屋さん、高齢化する社会には必要。住宅街から歩いていけるところにある小さな商店を守っていくのは必要だと思う。
- 市の予算を使って、失業対策や配偶者が仕事を得るための講習会を実施すべき。

(4) 都市・国際交流の推進

- 国内の姉妹都市交流と、諸外国との都市交流は、政策的にその目的は異なっている。目的に沿って施策を整理すべきである。
- 外国人住民は、要支援者、要援護者であると同時に、多言語支援の担い手になり得る。今後多言語、多文化化していく社会の中で、外国人住民をどう位置づけていくのか、今こそ政策の中に求められるのではないか。
- 国際交流協会は武蔵境にあるが、国際交流の拠点は武蔵野市にここだけである。外国人が多く住む武蔵境を、外国人と地域の人たちの交流のモデル地域として進めていってほしい。
- 自治体では、職員の異動があるたびに、一から勉強し直して、政策実施の経験ノウハウが積み上がらない。グローバル化に対応できる政策を実施していくには、推進組織としての国際交流協会の強化をぜひ進めていただきたい。

(5) 災害や多様な危機への対応

- ユニバーサルデザインには、外国人という視点がない。市内には2,400人も外国人が暮らしているが、災害時避難場所に外国語での標示をすとか、命に及ぶようなことがあったときに守られる配慮が大切である。
- 地域防災に参加する人がほとんどいないという問題がある。来るのは同じような顔ぶれで、基本的に若者がいないのが現状である。子どもだけでなく、若い方々も楽しく参加できるイベントづくりができるといい。
- 学校にある食料庫や非常用電話、防災トイレなどを見学する機会があり、防災についての知識を更新することができた。ただ、問題はそれが地域でなかなか共有できていないことである。魅力的なイベントにするのと同時に、その情報を共有できる体制づくりがあればと思う。
- 境南町は、地域防災懇談会という組織があり、コミセンには自主防災組織があって、日本赤十字病院とともに、防災活動に熱心に取り組んでいる。防災訓練や啓発をしていく上でも有利な場所として、市民と行政に病院も手をつないだ1つのモデルにする。うまくいったらほかの地域にも広げていくということになると、地域ごとの特性が生かせるのではないか。

【IV 緑・環境】

(1) 市民の自発的・主体的な行動を促す支援

- 緑の保全には確かにお金がかかるが、心のゆとりも必要。かけがえのない共有財産であるという市民の認識が不可欠である。武蔵野市で環境学習の機会等を積極的に推し進めていただきたいと思う。
- 境山野緑地保全では行政と協力し合って活動を進めている団体がある。クリーンむさしのを推進する会は、長年にわたってごみ減量に熱心に取り組んでいる。環境に優しいまちにしていくには、市民主体でありながらも、市が協働で取り組む形がいいのではないかと思う。
- イギリスには、「コミュニティガーデン」という考え方がある。どういう公園をつくっていくかというワークショップをやるだけではなくて、そこに市民がどうかかわって、公園を維持管理していくかというところまで持っていく。参考に取り入れるのもおもしろいのではないかと思う。
- 「新たなエネルギー活用検討委員会 報告書概要版」の中に、スマートシティの概念が盛り込まれているが、原発の問題も含めて、今後エネルギー政策、省エネ意識を、私たち市民一人ひとりが持っていく必要がある。エネルギーの問題、地球温暖化等々社会的な問題の中で、緑被率をどう設定をし、どういうまちを目指すのか、そこに政策理念的なテーマを持たせて包括的に提示していったほうが、市民にはわかりやすいと思う。

(2) 環境負荷低減施策の推進

- 東日本大震災以降、日本は地震対策に重きが置かれがちで、最近は温室効果ガス削減目標という言葉が聞かなくなった。しかし、環境省の発表によれば、排出量がこのまま増え続ければ、今世紀末の日本の平均気温は4.4度上昇し、熱中症死亡率も2倍に、洪水被害額は3倍になると言われている。悠然と構えているときではない。
- CO₂削減のために、ネオンの消灯、商業ビル建設の際の太陽光発電、冷暖房の効率アップの資材の利用の義務化などを推し進めることができたらと思う。海外の大きな都市では、まちの中心部への車の乗り入れを規制したり、駐車場自体の供給量を制限したり、一方通行路や通行禁止区域を設けるなどして、すばらしい効果を上げているところもある。私自身、不便に感じる部分はあるが、目先の利益や利便性の追求に走ると、今以上に大きなしっぺ返しが来る。行政で、時には強引にでも環境政策に取り組んでいただくことを強くお願いする。

(3) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

- 吉祥寺の通りを見ていると、確かに緑は多いし、武蔵境の南口も緑は多い。まちの中に木が多いということは特筆すべきである。
- 緑をふやすことはいいことだとは思っても、どれぐらいふやしたらいいのか、実は余りよくわからない。緑被率も、武蔵野市はどこまでふやしていくのかビジョンが見えてこない。ふやした部分をどのように活用していくのかも大事なのではないか。
- 資料を見て、緑被率が少しずつよくなっているのは、いい意味の驚きだった。大規模マンションをつくるときに、木を植えることが義務づけられた結果だと思う。
- 確かに武蔵野市は緑が多い。でも、緑はあるけれど、これは自然ではない、といつも思ってしまう。かといって、今さら自然を取り戻すこともなかなかできないし、私らのライフスタイルを変えるのも簡単にはできない。今の若い人たちは、緑よりはカーポートで、全部コンクリにして、雑草が生えないように砂利を敷いて除草剤をまいている。
- 住宅街の緑が減少に向かうことは私も懸念している。市の目標とする緑被率は平成 39 年に 26%、長期目標として 30%ということだが、緑を有する大きな家々が相続等で民間企業に売り出され、そこに3軒、4軒と小さな家が建つ現状では、住宅街における緑の保全是厳しくなる。
- やはり緑が多いほうが、暮らしていく上では、いいまちなのではないか。境山野緑地のような自然に近い緑はすばらしい。昔の雑木林を何とか保全しよう、自然な水辺を取り戻そうという武蔵野市の取り組みが進んでいけばいいと思う。
- 武蔵野市には、子どもが基地でもつくれるような公園はないのか。梅ヶ丘には、土と木と空き家があるだけで、指導員がいて、子どもが何をしてもいい公園がある。
- 最近は農業に興味を持つ若い人がたくさんいるし、身近なところで都市型農業体験ができるのはとてもいいと思う。
- 農地を残すことは、防災上も有効である。農地の中に入って遊ぶことはできないにしても、露地物の栗が初夏に花咲き、収穫の季節が来ることを目で見ることができるのは、子どもにとってもいい環境だと思う。農地の保全、民有地の緑というのは意識的に重点化していったらいいと思う。
- 建物を新築しても、塀が古ければ建築確認を通さないという行政指導があるし、建蔽率、容積率に、緑被率を加えてはどうか。
- 緑は、このまちのブランドになっているのだろうが、緑は箱物と同じで、つくればつくるほど維持費がかかっていく。相当なお金になっている可能性もあるので、市として頑張ってやっているとか、これだけかかっているがいいか、というアナウンスをすべきだろうと思った。

(4) 循環型社会システムづくりの推進

- ヒートアイランド対策で気になるのは、共同住宅よりも、むしろ一戸建てである。最近では、一戸建てでも草取りを嫌がるせいか、土が全くない家が多く、雨水が全部下水に流れている。これは下水道流出率 52%を 40%にしようすることの阻害要因になるのではないかと危惧している。
- 戸建ての場合、駐車場にコンクリを打たずに、砂利にするだけでも下水道流出率は減っていくと思う。共同住宅には雨水貯留タンクの設置を求めるなど、1軒の建築ごとにコツコツ地道に対策を講じていくのが一番いいと思う。
- 外環道で、武蔵野市の地下水は影響を受けないか、心配している。井の頭公園の水位が下がってしまうのではないとも言われているし、地下水を使っている武蔵野市民としては気になるところである。クリーンセンターで小型カセットコンロ爆発事故があり、新聞でも問題になったが、被害額はどのくらいだったのか、この部分は強調していいと思う。また、クリーンセンターの建設コストについても、市民にもう少し説明がなされていけばよかった。
- ごみの分別についての説明がかなり弱い。何をどう分けていいのか、私が引っ越してきたときも全くわからなかったし、新しく来た人も多分わかっていない。
- 資源ごみとしてのプラスチックトレイは、洗えと書いてあるが、どこまで洗えばいいのかわからない。プラスチックごみは、ちゃんと洗わないと再生できないので、相当洗わないといけなはずである。詳細なものにすると相当厚い本になってしまうが、説明を徹底していかなければ、使えないプラスチックごみだけを集めることになってしまう。
- お店で惣菜を買うときは、自分の皿を持って行って「これにのっけてくれ」と言いたいくらいである。そういう取り組みは、既にあるかもしれないが、これは市がではなく、商店街が推進してみたらおもしろいかもしれない。
- ごみ分別は、分厚い本を各戸に配るぐらいのことをしないといけないと思う。ジーパンやジャンパーのような、金属のチャックがついたものは、燃えるごみなのか、燃えないごみなのか、そういう判断もできないのが現状である。
- 何でもかんでも紙で配るのはどうなのか。できればデータで取れるようにしてもらいたい。長期計画の冊子も、家に何冊もあるので、市の方には、欲しければ自分で買うから有料制にしてと言っている。
- 武蔵野市のホームページには、燃えるごみ、燃えないごみの例示があいいうえお順に並んでいて、検索ができる。私も、捨てるときに、燃えるのか燃えないのか、資源なのかよくわからないものがあった、たしかそういうのをやっている自治体があると思って、武蔵野市のホームページに行ったら検索でき、「なるほど、これは燃やしていいのか」とわかった。
- ごみは特に、何も変わってなくても、市報で時々公知したら、市の労力もコストも、長い目で見れば減っていくと思う。14万人の市民の大半は真面目で、市が決めたとおりにやろうとする。ノウハウ、知識を授けてあげて、なるべくそこから外れないようにしてもらおうことが、ひいては市全体のコストダウンになるのではないか。

4 「持続可能なまち武蔵野」 — 第4回会議より —

【V 都市基盤】

(1) 地域の特性に合ったまちづくり

- 三鷹駅北側のツインタワーや武蔵境駅南側の高層マンションでは、ビル風が吹いて、高齢者や自転車の方に非常に危険である。風を分散させる工夫や対策をしていただきたい。
- 武蔵野市は、首都直下型地震が来て大規模な火災や倒壊が起きた際、密集地を完全にもとどおりにするのかどうするのか、平時のまちづくりではない非常時のまちづくりも、平素から考えておく必要がある。
- 障がいがあって、いろんな生活や活動をする上で不利益をこうむりやすい人たちが地域で暮らしていくために、武蔵野市は何を支援できるのか、住宅施策とあわせて意識していただきたい。

(2) 利用者の視点を重視した安全で円滑な交通環境の整備

- 自転車道をつくるために、大事なクスノキを次々切り倒していた。それよりは、低い灌木のグリーンベルトや、フェンスにつる性のものをはわせるほうが、よっぽど幅の確保ができる。
- 自転車専用道路のためには、道路の幅を拡張する必要があり、それなりの対価を支払う必要が生じる。自転車事故発生件数は年々減少しており、この数字を見る限りでは、わざわざ自転車専用道路をつくる必要はないのではないか。自転車対策は、安全な走行環境の整備よりも、マナー運転の啓発ではないか。
- 道路交通法そのものを小さいうちから教えていったほうがいいのではないかと。自分の身を守ることは早目に教えて、その延長線上で武蔵野市発行の免許証を持たせたらいいのではないかと思う。
- 小学校高学年の児童や中学生に、講習を受けてもらって、武蔵野ライダーではないが、格好いい腕章でもあげて、子ども同士で自転車マナーを教え合うようにしてはどうか。
- 子どもというより中高生以上の大人の運転が怖い。大人の交通ルール遵守に重点を置くべきである。
- 大人も講習を受けて資格証みたいなものをもらえるのであれば、その資格証のよさをもっとアピールしていいと思う。
- 資格証は、ただ出すだけでなく、目が不自由な人や車椅子の人がいたらどうするかということもプログラムに入れた講習にしてはどうか。その上で、資格証を持つことがステータスになる、例えば、物が安く買えるなど地域通貨のようなメリットも付加できれば、資格証を持つことの自負も出て、自転車運転のマナー向上につながると思う。
- 自転車のマナー啓発では限界があるので、厳罰化をしていくしかない。どんなに啓発指導しても放置自転車はなくなるらない。
- 武蔵野市役所は駅から遠いので、駅から市役所、市役所から駅のような片道利用できる貸し自転車のシステムをつくと、通勤される方にもいいのではないかと。
- 市民税を払っている武蔵野市民に、駅から近い駐輪場を利用する優先権があってもいいのではないかと思う。

(3) 道路ネットワークの整備

- 武蔵野市には、プレイスをはじめ、総合体育館、市民文化会館、公会堂など、市内に1つしかない文化・スポーツ施設がある。これをつなぐムーバスがあれば、アクセスしやすくなる。
- 電柱を地中化するのであれば、かなり強固なガードレールが欲しい。子どもを守るために、少しでもショックを和らげられる方法は何かないかと考えている。
- 電柱地中化は、多額のお金がかかる。景観がいいにこしたことはないが、狭隘道路でも緊急車両が入れるようにすること、車が来ても人が安全に歩けるようにすることを優先していただきたい。
- 五日市街道や井ノ頭通りは、土日に渋滞する程度で、特に道を広げるとか整備の必要性を感じない。多額の税金を投入して整備しなければいけない理由を具体的に提示していただきたいと思う。

(4) 三駅周辺まちづくりの推進

- いくらきれいになっても、何のためのまちづくりなのか。行政がどこまで主体的に関与して、まちをつくっていけるのか不明である。土地所有者の意向や、まちの理念、我々の意見が一体となって進んでいくのは非常に難しだろうと思うが、20年30年先、どういうまちづくりをするのか、わかりやすくしておかないといけないと思う。
- 歩いて楽しいまちづくりは、駅前商店街の利用者がどういう手段で集まっているのか、どういう手段を望んでいるのかを調査した上で考えていかなくてはいけないと思う。
- 伊勢丹が撤退し、吉祥寺にあった個性的な中小の商店も徐々に姿を消している。南北自由通路の開通セレモニーでは、たくさんの人が集まったが、集まった人たちが吉祥寺はいいまちだと感じた様子は見えてこなかった。目玉のイベントが往来の危険を理由に一部中止されるなど残念なニュースもあった。折に触れて、もう少し複合的にリンクさせる仕組みづくりをしていくことで、もっと魅力的なまちづくりが発信できると思う。
- 吉祥寺のサンロードはもっとすてきなショッピング街になってほしい。魅力あふれる個性的なテナントの誘致に、市がどのようにかかわっていくのか、具体的な案を示していただきたいと思う。
- 3つの地域について、「地域の特性に合ったまちづくりの推進」というのは、私は難しい気がする。「地域の特性に合ったまちづくり」という言葉に無理にこだわることはない。各地区をどう結びつけていくかという視点を置くほうがいい。それぞれの地域をつないでいく仕組みができれば、大きな意味でのまちづくりや都市基盤に発展すると思う。
- 武蔵境南口のバスロータリーを1区画南に移して、プレイスの北側とつなぎ、費用はかかるがタクシープールも地下化して、駅前を緑の公園か広場のようにしたら、すてきだと思う。長期計画には、そういう夢みたいな話を語ることがあってもいいのかなと思う。

(5) 安全でおいしい水の安定供給

- 地下水を守っていかないと、水道水を守れないし、井の頭公園の池も干上がってしまう。地面が露出していれば、そこから雨水が地下に浸透して地下水のもとになるが、地面をコンクリートで固めていくと、雨水は下水道に流出する。雨水浸透ますなどで雨水を地下に戻すことを強く進めていかないといけないのではないか。
- 武蔵野市独自のナチュラルウォーター「水・好き」も、おいしいので、私はすごく好きだが、飲むたびに、コストは幾らかかっているのが気になる。水道管の更新とともに水道料金も徐々に値上げをせざるを得ないのはわかるが、事業が本当に効率性を持ってやっているのか、疑問を抱くことがある。

【VI 行・財政】

(1) 市政運営への市民参加と多様な主体間の柔軟な連携と協働の推進

- 今回この市民会議へ応募をしたのは、無作為抽出のワークショップに参加したことがきっかけである。このような取り組みは、市政に興味がなかった私のような市民一人ひとりを導き出すきっかけとなるので、地道に続けていってほしい。
- 市民公募で集まる人たちは、意識も高いので、そういった方々同士をつなぎ合わせるようなものがあるほうがいい。
- 公平とバランスというところを慎重にやらなければいけないと思う。そのためにも、意見を聞くだけでなく、市民一人ひとりが話し合う場を設定してほしいと思う。市民自身がいろんな政策提言をして、必要な政策もしくは理想が行政と一致したら、お金がかけられる部分、かけられない部分を出して、優先順位をつける。そこの合意形成が、市の施策に反映されていくべきではないか。
- 最近、行政の人がワークショップの輪の中に入る形がふえてきた。市民と対話して、意見を求められれば一緒に話をする、といった機会はどんどんふやして行っていただきたい。
- 市民活動促進基本計画において協働を推進していくということは、単に市民と団体同士の協働を支援するだけではなくて、行政自体が市民と協働するということである。提案型の協働事業を推進していくとか、行政がともに事業を推進していくとかいう考え方があってしかるべき。市民参加は言葉はとてもきれいだ、私たち市民は、素人で、個人の考えは時に偏っていて、市政にそのまま反映されるものであるとは思っていない。逆に一人ひとりの声を聞きながら、パートナーとしての立場から、もう少し大上段から捉えて事業化していけるのが、自治体職員ではないかと思う。
- 自治基本条例ができることで、市民や議会が活性化し、武蔵野市の自治の推進が期待できる。市長には今後とも独自性を発揮していただいて、首長のリーダーシップで武蔵野市の自治をもう一歩進めていただく市政運営をしていただければと思う。
- 「第四次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針及び武蔵野市行財政改革アクションプラン」の中に、直截的な市民参加の手法も必要なのではないかという一文を見つけた。武蔵野市がこうした見解を持っているのは、とても尊いことである。それが市長や市議会議員、職員の交代などにより変わることはないよう、不変の理念として持ち続けてほしいと思う。

(2) 市民視点に立ったサービスの提供

- 市のプランには、自治体職員の経営感覚ということがうたわれていて、それが時代のニーズなのかもしれないが、そもそも公共的な事業に儲かる話は少ない。困っている人たちの痛みに敏感であり、寄り添える施策を組み立て、適正な予算を執行できる能力こそが、公務員には必要である。公務員の資質をもう一度考えていただければと思う。
- 図書館行政の中で、ぜひ「多文化サービス」を充実していただきたい。災害でも生活相談でも、例えば多言語対応デスクを1つ設けて、そこで全ての行政サービスの情報提供ができるようにする。数人のために1言語の通訳者を置くのは非現実的なので、財政援助出資団体の中に広域連携行政の仕組みをぜひつくってほしいと思う。
- 施設の性格を見極め、効率的な公共施設の運用と整備を続けていくのは良い目標である。この点、武蔵野市公共施設白書 35 ページによると、夜間開庁している中央市政センターの一日あたりの利用件数が吉祥寺や武蔵境と比較しても一番少なくなっている。これは、行政の意図と、利用者のサービス利用や潜在的なニーズにズレが生じてしまっている。せっかく統計資料からわかりやすく問題が上がってきているので、利用者のためになる体制の検証と検討をお願いする。

(3) 市民に届く情報提供と市民要望に的確に応える仕組みづくり

- 市の方は、広報しているつもりになっているが、市民に届く広報の仕方をしていないのではないかと、自分から進んで市に働きかければいろんな情報を得られるけど、そうでない人は情報が得られないという声がある。
- 武蔵野市は、広報はよくできていると思う。たくさんの人が見るようになれば、広告は勝手に集まってくるが、中身がつまらないとか、熱意が感じられなければ、誰からの反応も得られなくなる。
- 単なる広報ではなく、市民参加とか地域の間人関係、お隣さん同士の共助の仕組みづくりにつながる情報流通のシステムを検討していく必要がある。
- 障がい児の保護者や介護している方は、物理的な時間がなかなかとれない。周知して意見を求めるだけではなく、調整計画の委員には、当事者のところに赴いて意見を聞くという姿勢が必要だと思う。
- 私は行政の人が月に1回でもコミュニティの場に来て、コミュニティで活動している市民と話をしてほしい。相談事があれば、市役所のどこかにつないでほしいし、そうでなくても市民と色々な話をしてほしい。

(4) 公共施設の再配置・市有財産の有効活用

- 公共施設のあり方では、マンションができるなどして、子どもたちの密集している地帯と、そうでない地帯との差が大きくなっている。公共施設は、要らないのではなく、有効活用が大切である。長寿命化の考え方を進めていただきたい。今後建てかえるときは、複合施設ということを積極的に考えてほしい。
- 今、大型施設の建てかえの筆頭である公会堂は、本当に建てかえる必要があるのか。建てかえるなら保育所や特養を併設にする、場合によってはオフィスやマンションとして一部を売り出して、歳入も稼ぐことも考えたほうがいいのか。

(5) 社会の変化に対応していく行財政運営

- トップマネジメントということでは、邑上市政になり、中学校給食はとても助かったし、武蔵野プレイスもおもしろい。次は何か、と思ったが、ぱったりなくなった。市長はそろそろ何かおやりになったほうがいいのではないか。
- リスク管理では、危機発生時の業務継続マネジメントと業務継続計画が、行政の仕事ではとても重要である。システムがとまり、担当職員の不在で業務が滞っても、早く復旧させる手順を、あらかじめシミュレーションして、問題解決の方策を立てていってほしいと思う。
- 監査に市民委員の意見を聞くというプロセスがあれば、市民の信頼度が高まる。会計監査で公認会計士を依頼すると、年間数百万の費用がかかる。市民委員ならただ同然である。
- 少しでも歳入をふやすために、市報に広告を掲載してはどうか。
- 財政援助出資団体の自立というのは、日本が高度成長のときの発想で、武蔵野市は事業の見直し、再編縮小、整理統合の方向にある。そもそも財政援助出資団体が直庸職員を採用するのは、その法人固有の業務をやってもらうためである。法人の経営に明るい人を採用するわけではない。経営に明るくない直庸職員に整理統合させるのは無理がある。
- 財政援助出資団体、市民活動団体やNPO団体などに補助金が出ているが、これらは本当に必要不可欠な団体なのか、見定めて援助をしていくほうがいいと思う。
- 私が思うのは、行政と民間の区別がつきにくい要望があること、こんなことまで行政がやるのかということである。これから税金や国からの補助金などが減額していく中、民間でもできることをあえて行政がやることはないと思う。必要不可欠な施策を絞って、検討していってほしい。市民自身も、社会的弱者を除いてだが、自分のことはある程度自分で責任をとるという認識を持つことが重要である。

(6) チャレンジする組織風土の醸成と柔軟な組織運営

- 市役所は、世の中の企業の先陣を切って、人の働き方のモデルを目指すということをやっている。フレックスタイム制とか短時間勤務制度の検討を進めていただきたい。
- 専門職が嘱託という位置づけで雇用されている。非常に高い専門性を持った人に勤務してもらっても、その方に続けてもらうことができない。働いてもらってよかったといういい人材が、続けて仕事できる形をとるには、今の嘱託という雇用のあり方が必ずしもいいとは思えない。
- 市職員の育成に外郭団体を活用するという発想はどこにも出てきていない。外郭団体の経営をきちんとやろうとするなら、直庸職員ではなく、むしろ市の職員を外郭団体に出して経営感覚を身につけさせるほうが、安上がりで、いい人材育成になる。
- 先輩がフォローする仕組みをつくる。今、どこの自治体も学校も、メンタルヘルスの課題があって、しんどくなる職員がふえている。先輩がきちんとついてサポートし、話を聞いて、必要があればどこかにつないでいくというフォローの仕組みが必要である。
- 市に勤めているんな経験をする中で、15年たったら、自分のしたい仕事の部署についてもらう。30年たったらもう一遍、したい仕事についてもらって、市役所での仕事の総仕上げみたいなのをやってもらう仕組みがあるといいのではないかな。

5 「市民参加のあり方」 ～市民会議を振り返って～ ー第5回会議よりー

- 長期計画を私自身も行政計画と呼んでいるが、本当は市民の計画にならないのかなと思う。つくりっ放しで、その後、市民が一切関与していないというのではなく、市民が自分たちのまちをつくり上げるために行動をしていくという性質を持たせられないか。私たち一人ひとり生活していく上で課題をいっぱい感じている。その課題をどう解決していくのかを提言していく場であってほしい。
- 長期計画のPDCAサイクルを話し合える資料配付や進め方をしてほしかった。我々も資料を読み込んで会議に臨んだが、長期計画のどの部分を受けて、現状をどう変えようとしているのかが伝わってくる資料が少なかった。そこら辺がもう少しあれば、もっと充実した議論になったと思う。
- 第四期長期計画・調整計画は、100人規模の市民委員を公募した。相当なエネルギーと労力がかかったが、少なくとも約100人の市民が参加したこと自体は大きなことである。それがどう評価されて、第五期長期計画から10人で5回の市民会議へと組み換えられたのかわからない。我々のわからないところで物事を決められているというプロセスがあると、市民参加は市民の納得いく形では進みにくくなる。エキスパートである行政の方と一緒に、話し合いながら、計画をつくるなり、協働するなりが必要だと思う。
- 武蔵野市方式の市民参加に初めて参加して感じたのは、手を挙げた市民の見識の高さである。ただ、俯瞰した形で議論できる市民が集まっていたにもかかわらず、毎回の会議は、意見を述べるだけであり、議論の場と言えるものにはなっていなかった。各委員の論点を明示して意見を交わし合うことで、市民提案の施策として深まりのあるものができ上がると思う。また、現場サイドで積み上げられた知見も1つの専門性なので、策定委員会の構成については、そこをもう少し大切にしたいほうがいいのではないかと感じた。いわゆるサイレントマジョリティが、市政にどう関心を持ち、生活者レベルで日々何を感じ、行政に対してどんな思いなり意見を持っているか、丁寧に拾い上げていくプロセスがもう少しあるといろいろな人たちが関心を持って参加してくるのではないか。
- 一人ひとりの委員が市役所に向かって発言しているだけだという意見が強く印象に残っている。非公式の場で議論なく委員が各自の意見を言っているだけならばインターネットで集約したほうがいいという意見もあった。これは、委員を公募あるいは無作為抽出にしている限り、やむを得ないことだと思う。また、私は、少数の市民が深くかかわるよりも、多くの市民が広くかかわることのほうが重要だと思っている。インターネットで多くの市民の意見をまとめて、別の形の市民会議にかけるほうが、より広い形の市民参加になると思う。
- 大変な人ほど参加できないなと思った。ウェブ会議の開催など、ハードで解決できることは積極的に取り入れていけば、より多くの市民が参加できる。また、事前に意見を話し合うスタイルにすることで、限られた時間に有効な議論ができると思う。

- 私は本当の無関心層だが、市の情報にアクセスしている人と、していない人の差が激しいことを感じた。市民はもっと知らなきゃいけないし、知ってほしいと市のほうから言うことも大切である。とりあえず手伝ってよとか、無関心層もどンドン取り込む形でやっていると、投票率の低い今の若い子みたいな人ばかりになって、私のような人は何もなくなってしまふ。
- 第4回が終わってからのメールのやりとりは、すごく有意義だった。事前に話し合いがなされて、市民会議の場でもむという形が、4回目を終わってでき始めた。また、会議に参加したくても、参加できない人のための環境整備も必要である。一方、無関心な人には、行政側からのアピールは既にしていると思うので、これからはもっと垣根を低くしてもいいと思う。ふらっと、いつの間にか引き込まれるような環境をやんわりと整備するというか、そこから一人ひとりの問題意識のようなものが生まれてくるようなものができていくといいかなと思う。
- 市民会議の人選についてだが、市民が興味を寄せ必要とする施策は、世代とか性別、家族構成によってさまざまである。何のバックグラウンドも考慮に入れないのも1つだが、反対に、そうしたことを考慮に入れた人選にすることで、より広く公平な市民層の意見が出ると思う。また、今のネット社会で一番難しい問題は、やはりコミュニケーションの形成である。今のコミュニティのあり方をさらに拡大するのは困難だと思うが、ただそんな中で、市民会議に参加することで自分に何ができるのかを考えるようになった。気軽に挨拶をすることを手始めに、同じ地区に住む人と連帯感のある小さなコミュニティを模索していこうと思う。
- 以前出席したワークショップは、たくさんの方が参加できる機会なので、なかなかおもしろいと思った。なので、市民会議という会議体にこだわらずにおやりいただきたい。この市民会議に期待するもの、ワークショップで導き出したいものが見えず、役割もわからずに第1回に出席して、「皆さんでご自由に意見を言ってください」というところから、ちょっとした発見とか気づきがあればいい、そんな岡目八目的な役割ができればいいのかなと思った。
- 市民参加は、参加した人たちの「参加感」が重要である。市民参加で述べられた意見が反映されたというフィードバックがあれば、参加する意味も感じるができる。言ったことが全部反映されるとは思っていないが、その一かけらでも反映されることが次につながっていくと思う。
- 私はワークショップに参加して市民会議に応募した。市民会議について紹介はあったものの、詳しい内容についての説明は全くなかった。また、市民会議の応募締切が、ワークショップの終わった3～4日後だったので、期間をもう少し長くすれば、応募する方もふえると思う。
- この市民会議は、 이슈ーが5本あるので、 이슈ーごとに5人の25人が5回やれば、話し合いも濃密になる。

- 自分では考えもつかなかった意見に触れることができたのが、この市民会議のよかったところである。ただ、言葉にできなかったことや、会議では出ているが抽象化の際にこぼれ落ちてしまったことなどもあると思う。次の会議に生かせるような資料の作成をよろしく願いたい。

- 市民参加の基本は、一人ひとりの市民の声をどれぐらい丁寧に聞けるかである。「それはできません」ではなくて、どうすれば生かせるかを考えていくほうが、建設的な話になっていくと思う。市民会議については、ほかの人の意見を聞いた上で一旦持ち帰って、あの人の意見はどうだろう、ということがあって、もう一回あるということが議論につながっていくのではないかと思う。また、市民参加のベースを支えるのは、ふだんの市のいろいろな活動である。まちで行政の人と市民が話をする機会がふえることが、より多くの市民参加につながると思う。

参考資料

◆検討の経過

	日時及び会場	内 容
第1回	平成26年6月5日(木) 午後7～9時 市役所412会議室	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 市長挨拶 4. 委員自己紹介 5. 事務局紹介 6. 議事 (1) 趣旨説明 1) 調整計画について 2) 会議の位置付け 3) 運営等 ①次回以降の日程について ②会議の進め方について ③検討テーマについて (2) 武蔵野市の魅力等についての課題抽出+意見交換 7. その他
第2回	平成26年6月17日(火) 午後7～9時 市役所412会議室	1. 開会 2. 前回議事録の確認 3. 議事 【健康・福祉】 【子ども・教育】 4. その他(次回について)
第3回	平成26年7月2日(水) 午後7～9時 市役所811会議室	1. 開会 2. 前回議事録の確認 3. 議事 【文化・市民生活】 【緑・環境】 4. その他(次回について)
第4回	平成26年7月17日(木) 午後7～9時 市役所412会議室	1. 開会 2. 前回議事録の確認 3. 議事 【都市基盤】 【行・財政】 4. その他(次回まとめについて)
第5回	平成26年8月7日(木) 午後7～9時 市役所811会議室	1. 開会 2. 前回議事録の確認 3. 議事 (1) 報告書(案)について (2) 市民参加のあり方～市民会議を振り返って～ 4. その他 策定委員選出

◆第五期長期計画・調整計画市民会議設置要綱

(設置)

第1条 武蔵野市長期計画条例（平成23年12月武蔵野市条例第28号）第3条の規定による武蔵野市第五期長期計画・調整計画（以下「調整計画」という。）の策定にあたり、同条例第4条第2項の規定により設置する武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）の検討に資するため、武蔵野市第五期長期計画・調整計画市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 市民会議は、調整計画の策定にあたり、武蔵野市第五期長期計画（以下「長期計画」という。）の市政運営の基本理念を踏まえ、次に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 長期計画の評価及び調整計画策定において議論すべき課題に関すること。
- (2) 武蔵野市（以下「市」という。）が目指す将来像に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

(組織)

第3条 市民会議は、次の各号のいずれにも該当する者のうち、市民会議の委員の公募に応募したもので、市長が適当と認めるもの（以下「市民委員」という。）10人以内で組織し、市長が委嘱する。

- (1) 平成26年4月1日現在18歳以上であること。
- (2) 市内に在住し、在勤し、又は在学していること。
- (3) 調整計画の策定及び市民会議の設置の趣旨を理解していること。
- (4) 原則として、月2回程度開催する市民会議に出席することができること。
- (5) 武蔵野市議会の議員又は市の職員でないこと。

(策定委員会委員の指名)

第4条 市長は、市民委員のうち2人以内の者を、策定委員会の委員として、市民会議の意見を聴いたうえで指名する。

(謝礼)

第5条 市民委員には、市民会議の会議への出席1回につき4,000円の謝礼を支払う。

(設置期間)

第6条 市民会議の設置期間は、平成26年9月30日までとする。

(庶務)

第7条 市民会議の庶務は、総合政策部企画調整課が行う。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、市民会議について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成26年5月1日から施行する。

◆第五期長期計画・調整計画市民会議 委員名簿

	氏名	住所
1	いほら こうち 井原 高地	緑町
2	おおかわ まこと 大川 誠	桜堤
3	かわはら ひでこ 川原 秀子	吉祥寺東町
4	かんの あきひこ 菅野 昭彦	桜堤
5	くりはら こわし 栗原 毅	境南町
6	すぎさわ みちこ 杉澤 経子	境南町
7	せやま みさき 瀬山 岬	境
8	ひぐち みのる 樋口 稔	吉祥寺東町
9	ほんだ よしみ 本田 兆美	桜堤
10	よしだ まさみ 吉田 眞實	吉祥寺東町

(50音順)

◆傍聴について

	傍聴者（人）
第1回	0
第2回	8
第3回	2 1
第4回	1 7
第5回	1 1



第五期長期計画・調整計画市民会議報告書

平成 26 年 9 月

作 成 第五期長期計画・調整計画市民会議

事務局 武蔵野市 総合政策部 企画調整課
東京都武蔵野市緑町 2-2-28
電話番号：0422-60-1801
ファクス番号：0422-51-5638